

ユーザーを訪ねて

No.175

住宅街にある工場で独自技術を 有限会社上田精工

今回のユーザーを訪ねては、JR北陸本線・鯖江駅から車で西に10分の距離にある有限会社上田精工取材いたしました。鯖江市内の住宅街の細い路地に入り、周りを全て住宅に囲まれた所に会社があります。取材には北崎栄社長に対応頂きました。

同社は昭和47年設立で、精密機械部品製作を行っています。鯖江市はメガネ生産が有名で、多くの会社がメガネの生産に携わっていますが、同社は近隣の大手電機メーカー等の部品製作を主体にして業務を行ってきました。現在では、多数のマシニングセンタ、NC旋盤、研磨機、ワイヤー放電加工機を11人で駆使して、関東、東海の専用機メーカーの精密部品製作を行っています。



▲会社工場

社員から社長就任へ

創業者は上田賢治氏で、北崎社長は2代目ですが、上田氏とは血縁関係はありません。北崎社長は地元の工業高校を卒業して同社に入社して社員として働いていました。

「平成19年に社長に就任しました。社長就任5年前に創業者から「お前やってくれ」と言われました。社長になれば、この会社で働く社員と家族の生活が私の肩に乗るわけですから、「嫌です」と返答しました。それから3年が経過して再度創業者より「意思は変わっていないか」と聞かれ、「意思は変わらず、出来ません」と返答しました。すると創業者は「私も60歳で引退する意思は変わらないので、廃業する」と言われました。当時会社のメンバーと常に難しい加工に取り組んでいて、モノづくりの楽しみを体感していました。廃業して他社に移っても仕事は出来るが、このメンバーと一緒にやりたいとの強い気持ちがあり、「ちょっと待って下さい。家族と相談して返答します」と答えました。両親、妻ともに社長就任を応援すると賛同してくれ、会社名も引き継いで平成19年に社員から社長に就任しました」と社長就任の経緯を語る北崎社長。

モーター巻線機専用精密部品への進出

「平成15年ごろに、当社の仕事先であった福井県内の大手電機メーカーが地元から撤退するとの話がありました。創業者と私で取引先を拡大するために、各地へ営業活動を行いました。その時に現在主力であるモーター巻線機専用機を作るメーカーとの出会いがありました。最初は図面を頂き、無償で製作して納品もしました。徐々に技術力が認められ少しずつ仕事量が増えて、現在では当社の主力ユーザーになっています。先方からは「2倍やってくれるなら、2倍の仕事を出します。3倍でもいいですよ」と言われています。しかし、難しい加工なので、そう簡単には生産量は上がりません。またある時ミスがあり謝りに先方へ伺うと「来なくても良いよ。それより1個でも早くモノを作って欲しい」と言われる程、信頼を得るまでになっています」と北崎社長。

立形マシニングセンタMC-600VFを設備

「当社では、様々なメーカーの工作機械を設備していましたが、マツウラの機械はありませんでした。高精度の部品を安定して製造するには、機械の剛性などの造りこみがしっかりした機械が必要と考え、平成8年に製作された中古機械のMC-600VFを平成23年に設備しました。15年間使われた古い機械でしたが、社内にある他社メーカーの機械と比べても安定した加工が行え、マツウラのモノづくり力を体感しました」と北崎社長。

5軸立形マシニングセンタMX-520を設備

「MC-600VFを設備して、次はマツウラの5軸加工機を設備する準備として資金確保を進めていました。その時政府のものづくり補助金制度を知り応募しました。平成24年度『ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援



▲MX-520の前で、右より北崎社長、廣田拓也工場長、川崎康弘工場長補佐、土谷良恵品質管理長

駆使して精密機械部品を製造する

補助金に『環境問題推進プロジェクト』で採択され、平成25年にMX-520を設備しました。廣田工場長が担当し5軸割出加工は問題なく加工できるまでになっており、現在同時5軸加工にも挑戦しています。MX-520の導入により生産能力が向上したので、2台の機械が不要になりました。また5軸加工機を設備したので、3次元測定器が必要になると思い、取引先に打診したところ、「当社の3次元測定器で測定したデータを送るので、その設備投資はしなくていいですよ。生産に注力して下さい」と言われました。3次元計測器を設備すると、計測する人を雇わないといけませんし、作業工数も取られます。現在までMX-520で加工した複雑な形状でも加工不良は出ていないので生産に集中できて助かっています」と北崎社長。



▲MC-600VF

図面に書けない加工ノウハウ

「ある取引先がアメリカに工場を進出したとき、今まで当社で加工していた部品をアメリカの企業に当社のサンプル品も付けて委託しました。アメリカで作られた部品を取り付けて専用機を稼働すると不良品しか出来ません。それでその部品を当社に持ち込み修正をしたところ、見事に良品が出来たことがあります。しかし、取引先の担当者には、その理由が分かりません。当社では長年の経験で、その部品が機械の中でどう使われ、どう動くかを理解しています。図面に書けないノウハウを当社は培ってきました。このように設計者がその部品にどういう動きをさせたいのかまで汲み取って部品を作っています」と北崎社長。

難しい加工に喜んで挑む企業文化

「当社では、簡単な部品を現場に出すと嫌がられます。経営的には数量もあり利益確保できるのですが、難しくて挑戦的な部品を現場の担当者は喜びます。失敗すれば材料費がムダになり赤字となりますが、失敗の経験が当社にノウハウとして蓄積されます。それ故「失敗を恐れるな」と

有限会社上田精工 概要

会社工場 〒916-0057
福井県鯖江市有定町3丁目4-21
TEL 0778-51-6834 FAX 0778-52-0520
役員 代表取締役 北崎 栄
設立 昭和47年8月
従業員 11名
事業内容 精密機械加工部品製作

社員には言っています。部品を作る上で、設計者の要求を考えることは、私が考えるモノづくりの楽しみです。設計者と意思が通じ、「それが分かってくれた」と感激してくれます。納品した部品を取り付けて専用機で良品が出来る、設計者も嬉しく、また作った私達も嬉しさを共有できます。その積み重ねが当社の企業文化を育てています。工場ではプログラムを作る専用の担当者も部屋がありません。各機械の前にPCを置いて、その中にインストールされたCAD/CAMでプログラムを担当者自ら作って責任を持って加工しています」と北崎社長。

加工した部品が営業マン

「世間では、地球温暖化などで環境問題が大きく取り上げられていますが、取引先も環境問題解決関連の業務のために業績を伸ばしています。それに伴い当社の仕事量も増えています。営業活動しなくても、納品した部品が次の仕事を取ってくれるので、当社はモノづくりに集中できます。但し、人材不足が悩みです。当社では任されて仕事に取り組むので3年経過するとモノづくりの楽しさを実感出来ますが、そこに到達する前に退社する場合があります。5軸加工機のMX-330の設備を考えていますが、担当する人材がいないので足踏み状態です」と北崎社長。



▲MX-520で5軸加工したサンプル

今回の取材で初めて訪問しましたが、住宅街の細い路地に工場があり驚きました。また業務内容をお聞きすると、最先端の専用機に装備されている部品を製造していることに再度驚きました。更に、「もの言わぬ、モノがものを言う、モノづくり」との言葉がありますが、同社のモノづくりを通じて取引先との深い信頼を培っていることに驚いた取材でした。